

## 1. 調査目的等

- 小学校2年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題を検証する。
- 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

- NRTの学校平均偏差値を1ポイントアップさせる。(49.9P → 50.9P)
- NRTの「評定1」の児童数を減少させる。(15人 → 10人)

## 3. 指標にむけての取組

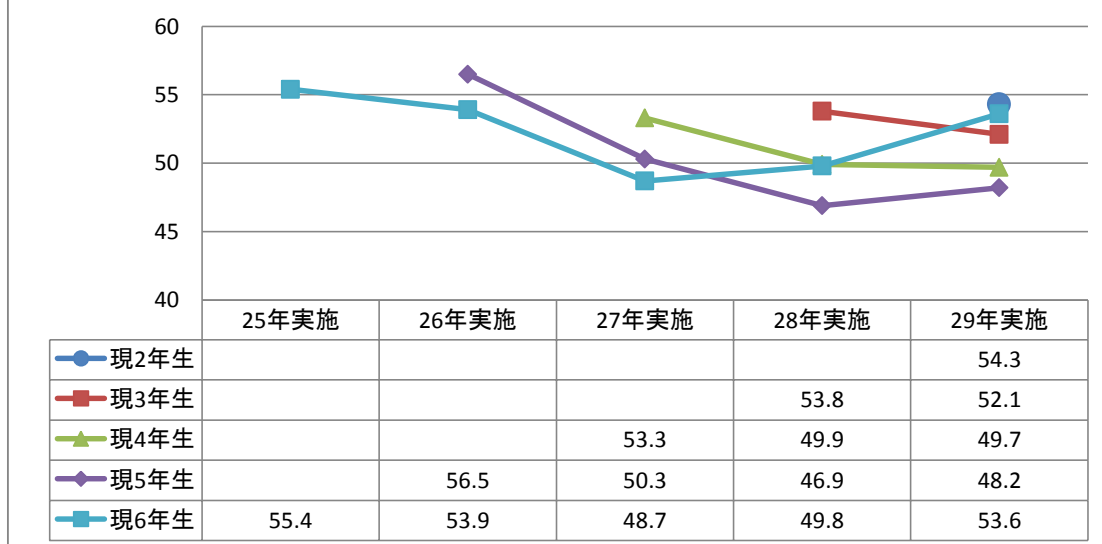
- 単元及び1単位時間において、意図的・計画的な「読む・書く・表現する」活動を設定する。
- 基礎・基本の内容を確実に習得させために、形成的評価を実施する。
- 算数の重点単元を設定し、少人数分割授業を実施する。

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本校(A)	53.1	54.0	50.4	49.9	51.7
嘉麻市(B)	49.8	50.0	50.8	50.7	51.5
(A)－(B)	3.3	4.0	-0.4	-0.8	0.2
標準偏差値との差 (A)－(50)	3.1	4.0	0.4	-0.1	1.7

### 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

○「読む・書く・表現する」活動の設定及び学習規律の徹底により、NRTに最後まで集中して取り組む児童が増え、無答率が減っている。そのため、NRTの学校偏差値が1.8Pアップした。

○昨年度から、現6年生を対象に、全国学テの問題に対応するための授業改善や宿題指導等を行った結果、全国学テとともに、NRTの成績も大幅に向上した。

○低学力児童への補充学習等を行った結果、「評定1」の児童が15人→5人(5%→2%)、「評定2」の児童が54人→47人(21%→18%)と、低学力児童が減った。

○家庭学習の提出率が93.3%で、全校児童327人中22人(学級で2人程度)が家庭学習が定着していない。特に、学力や集中力、学習意欲等に課題のある児童が多い。

## 6. 各学校における今後の取組

○全教科において設定される「自分の考えを『書く』活動」の充実を図り、児童に必ず書くという意識と書ける学力を身に付けさせる。

○5校時の始まりに、5分間の「いなちゃんタイム」(集中力育成トレーニング)を設定し、午後からの授業への集中力を高め、学習に対する心構えを作る。

○家庭学習を「鍛ほめ福岡メソッド」の柱とし、宿題の提出率100%を目指す。そのために、学力や集中力、学習意欲に課題がある児童には、低学力の克服も含めて放課後の宿題指導(個別指導)を行っていく。

○5年生を学力向上の重点学年に位置づけ、複数体制で指導を行っていく。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◆嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を開催し、有機的に機能させる。そのために、短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

◆嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、教員の実践的指導力の向上を図る嘉麻市研究指定校事業を展開する。

◆基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。また、長期休業中及び放課後等における補充学習、個に応じた学習を支援する。